

昭和一九年

(八十五)

体はあまり御心配下さいますな。日にちをかけて養生すれば快くなりますから。加計がどさくさしましたので報恩講も一日からは出来ず、帰広後二十日から四日間ほど営みましたが、私は寝たまゝで語りました。年末年頭の御法話を寝間でしたことも本年がはじめてです。体を悪くしたのもあまり労働をした為で皆戦争のおかげです。業ですね。混とんたる世相の中に皆泣いています。とりとめのない涙にくれています。唯御念仏のみがそれを救って下さいます。何と言つてもみ法に御会いさせて頂いたものは幸いです。

小春夫人よ、御二人のお子様がかわるがわる出て来ては話しかけて、又してもく涙の人とするでしょう。凡夫の心はどうすることも出来るものではありません。人生の悲しさ、さびしさ、醜い矛盾、日本海の波のようにおしよせ、胸中におこる妄念妄想、愚痴、それをどうすることも出来ませぬ。どうすることも出来ぬものを、どうしなくてもいい、整えて見てもおさえて見ても、はしから崩れてゆきます。日本のお国の現在のように、どうすることも出来ぬ心をどうすることも出来ぬままに、唯久遠の御命につながって生きさせて頂くより外ありません。泣く心、暗い心、さびしい心そのまゝを久遠の大悲の中に泣き苦しませて頂くのです。

実は聖徳太子、法然、親鸞、こうした聖賢は皆久遠の生命の中に泣き苦しみ悩んだ！お方です。大悲の外で泣いてはならない。泣くまいとしても駄目、あるがまゝの心の相を大悲の中に見させて頂いて念仏申させて頂きましょう。たとえ一片の煩惱業苦も大悲誓願の中に映じて、一つとして無意味なものはないようにして下さったのが大悲であります。しかしこうして人生のありのままの相で手ばなしで生き得る人には安らぎが与えられます。信心は安心であります。さびしいけれどもこの安心の境に念仏される時、二人の御子様も亦そこに生きていられます。

大法の聞かれないようになる悲しささびしさを私が考えている程考えてくれています。ましようか、深く考えて悲しんでいるなら、聞かれぬ日にも御念仏が続きましょう。多くの人は悲しみも何もなく元気に足音高く無仏の国に去つていつて平気です。噫。

昭和十九年一月十九日

夜晃

佐々木小春夫人御中

(八十六)

合掌 度々御はがき有難く頂戴致しました。その後、仕事は、どのようにしてられるやら、お体は如何やらと、そのみ案じていますが、そのことは何も書いてあり

ません。長い間、遊んでいた次なので、体や目に悪いことはないかと心配していません。

御法の聞きたい子に、長い間、本部において御法を聞かせることが出来て、これほど嬉しいことはなかった。よほど、御法に、本部に、因縁の深い人であります。毎日、聞いたみ法を思い出しては、念仏していることでありましょう。又、家庭では、皆、本部の様子のわかった人ばかりで、御念仏の御讃嘆が、毎夜なされて有り難いことでもあります。

皆様によろしく云って下さい。又、河野直臣、桜井、林さん、稲垣さん等の同胞にもよろしく云って下さい。

先日は、おもちをたくさん有り難う御座いました。私は、目下断食をしているので、これがすんで頂くのを楽しみに水につけておいてもらいました。何と念仏と餅のすきなこと。お母様、奥さんによろしう礼を云って下さい。一つ一つに、御心がこもり、御手がかかったものです。念仏して頂きます。

聖典の二一ノ六、末燈鈔の第六章を開いて、「何よりも去年、今年」という所から、何べんでもよく頂いて下さい。これは、二月八日の夜、若が加計から帰ったので、佐々木君の部屋で、常会があつた時、頂いたのです。こゝを頂いて、先ず、どんなことが味えるか、手紙をよむのをこゝでおいて、幾度もお読みなさい。

その夜は、先ず、この文の中で

「さればこそ、愚痴無智の人も終わりもめでたく候へ。」

の御言をとて有難く頂いた。念仏の行者は、今でもそうであるが、「終わりのめでたく」して下さる。どんな立派な盛んなことでも、終わりが芽出度くないならば、それは、決して善いことでも芽出度いことでもない。終わりがよく、終わりが美しく立派であつてこそ、それはよいことです。念仏行者は終わりを芽出度くして下さい。

しかし、それは決して臨終の善悪を言われるのではない。「まづ善信が身には、臨終の善悪をば申さず」とあります。臨終が芽出度いと言え、他門の人は、やれお浄土が見えるの、紫の雲がたなびくのと云うであろう。しかし、聖人の仰せはそうではない。

「往生を遂げさせたまひ候べし。」

と仰せられるのである。この御文にもう一ヶ所、

「おのゝ御往生候ふべきなり。」

(十二日に、ここまで書いて、十三日からは弱つて床の中、十五日、断食をやめ、十六日、重湯、今日やつと普通少々。二十日、筆の持ちはじめです。やせました。)

とあります。「おのゝ御往生候べきなり。」

この御言、聖人の精一ぱいの御慈悲であります。さびしくひびく御言葉ではある。しかし、人間最後の真実であります。この世の人と人との交渉も、つれあいに力を入れず、育てた同侶さえ関東に残して、一人、とぼとぼ京にかえられた聖人は、「おのお

の御往生候ふべきなり。」と念じていて下さったのである。浄土における交渉、浄土に於ける再会、何と言う深い／＼智慧であろう。

この御文の中程に、法然上人の御法語がある。「浄土宗の人は愚者になりて往生す」とあります。これ聖人の一生、頂かれたみ教である。誠に、ゆめ／＼物知りとなつてはなりません。智慧第一の法然房も愚智の法然房であり、不滅の人格、親鸞も愚禿である。如何にいわんや、我等如きの凡夫、智者、物知りとなつて、本願の御心を失つてはなりません。正定聚に住し、やがて、往生を得させて頂くは「如来の御はからい」によること、さればこそ

「そればこそ、愚痴無智の人もめでたく候へ。」

であります。書き度きことはたくさんあれどもつくさず。この御文よく／＼御相談御がん味なされたし。

本部では、一同無事、御安心下さい。では今日はこれでおきます。御大事に。家の皆様によろしく言つて下さい。南無阿弥陀仏

昭和十九年二月二十日

田畑福一様

夜晃

(八十七)

合掌 南無阿弥陀仏 平素御達者な時、ようこそ聞法精進なさいました。定めし病床にあつて御苦しい中にも御慈悲を喜び、御念仏申して下さいますことでありましょう。そして御念仏の中に一切をみ親におまかせしきつて安らかに今日一日を御養生のことであろうと、御察しして念仏申してありますこと御座います。

散る時が浮ぶ時なり蓮のはな

散る桜残る桜も散る桜

さりながら人の世は皆春の雪(句仏上人の句)

誰も彼もおそかれ早かれ皆その日が来ます。その時、宿縁有難くも大法にあい如来の本願に救われたものは、死にとうもないままが、永遠常住の国、み親の国、ほんとうの故郷に帰らして頂くことあります。凡情から言えば名残りはつきぬことです。

しかし、み親から言えば愛子がはじめて流転の暗をすてて帰つて来るのを御喜びの時であります。歎異抄の九章をよく／＼読んでもらつて御味わ下さい。

何もかもかわる、しかしかわらぬものは如来の大慈悲のみ。何もかもあてにならぬ、あてになるものは金剛の本願力のみ。信心の人は撰取不捨の故に大手はなして大安心だ。南無阿弥陀仏

昭和十九年五月六日

竹中政人様

住岡夜晃

(八十八)

合掌 南無阿弥陀仏 二月二十九日付けで頂いた御手紙、幾度も有難く拝読しました。一度御返事をお思いつつ遂に今日に至りました。その後御無事で御精進、御奉公のことと存じます。三月、正覚寺に参りました時にはよくこそ唯の一席を聞く為に帰り下さいました。御精進のほど有難く嬉しく存じました。

念仏の世界の如何に尊いか、日々夜々そのことのみ痛感致しております。又念仏なき世界の如何に暗く罪惡のみに満ちたものであるかは君も亦事毎に痛感していられることであろうと思います。

伝教大師は山家学生式に

国宝とは何物なりや

宝とは道心也

道心有る人を

名づけて国宝と為す

と言われました。信心は無上道心であります。念仏の人は道心有る人である。又云く、

一隅を照らすものは

此れ則ち国宝なり

上御一人は我らを「おほみたから」とおよび下さいます。かかる有難い国が何処に4ありましょう。我等は念仏して一隅を照すことの出来る身にして頂き、この御聖恩に報い奉らねばなりません。

念仏の橋頭墜の死守、念仏の警察官になり切つて真に御奉公申し上げようとする君の存在することを誠に嬉しく有難く存じます。我等は断じて戦局の現状に一喜一憂することなく、あくまで神州の不滅を信じて、ひたすらに金剛不壊の信念に住して、不退転の一道を精進させて頂きましょう。君の御説の如く滅すべきもの滅し、興るべきものは興り、残るべきものは残る世紀の大動乱です。この秋、いよいよ大確信に立たされる我等の幸をおもうことでもあります。御大事に御精進下さい。南無阿弥陀仏

昭和十九年五月七日 夜晃

山田誠次様

(八十九)

合掌 御一生の活路を教育壇上に求めて、御出発遊され候こと 御喜び申上候。

内に念仏の聖火を燃やしつつ、深く埋め、ひたすら御精進、相成候ことを切念仕り候。いづれ、御帰郷のこともあれば、御出会い仕度。一生御求道御精進下され度候。

御身御大事に御勉学遊候よう念入候。早々

昭和十九年五月八日 住岡夜晃

安永須磨子様

(九十)

合掌 御便有難う拝見致しました。先ず千代子夫人、男子御安産の由、目出度う存じます。しかし発熱してあったとのこと、その後如何やらと心配しています。又母丈も子供も御病気だったとのこと、御心配でしたでしょう。その後は皆御よろしいのでしょうか。

永代経の御講師、立派な方であったとのこと安心しました。一期一会の法会に講師が悪くては誠に相済まぬ損失です。それで安心しました。私は津山と岡山と福山と三支部すまして二十日に帰り、二十一日降誕会を営み、それから学生に引かれてずつと本部にいます。二十八日に吉見の法事だけです。六月の例会は如何ですか。

近頃は「海」本願海、大心海等、海について考えれば考えるほど不思議だと、海について盛に不思議がついています。海と無関係の生活は哀れである。誠に真実教は海である。

母丈にも千代子夫人にもよろしく御伝え下さい。

昭和十九年五月二十四日

夜晃

若殿

5

(九十二)

合掌 御盆会は、昨年よりも一昨年よりも盛にすんでしまいました。けれども一人の愛子は其の席に見出すことは出来なかつた。あれだけ聞きたがる子に聞かせることの出来なかつたことを残念に思いつゝ講をすすめました。しかし聞かれぬ日にこそいよく念仏しているであろうことを思い、本部のことを憶念しているであろうと思つていると、御便りが来て、そのことが事実であることを嬉しく思いました。南無阿弥陀仏。「はなればなれに住んではおれど……」南無阿弥陀仏。第一線に出られず、通年動員に出られぬとて不甲斐なく思う心は十二分にわかる。しかし念仏すれば一人前以上。南無阿弥陀仏。それよりも悲しいことは念仏に生きられぬこと。何よりも先ず久遠劫来の因縁によつて正法に遇い、大悲光明の撰取の身となりたまひしことを喜ばして頂くことこそ第一である。

聞くが如くくんば病を悲観して、「姉も我が歳に死んだ」とて、気にしているとのこと。何たる愚痴であるか。心中深く一死以つて(以上八月十七日書、島根山口の両県の講習中は疲労の為に筆を手にし得ず。九月五日例会もおわつて再び筆を取る)決する所あつて御奉行せよとは申したけれども、その程度の病に悲観せよとは言わなかつ

たことです。その後御体のぐあいは如何です。平熱になったか、食欲はあるか。御様子詳しくお知らせ下さい。

本部では一同無事。来る十日には第四期の寮生が来ます。西岡君と坂口君は江田島へ入学です。二十日が卒業式とか。皆はなればなれに出てゆきます。藤原君は副手で居残り、細川君は多分広島師範です。

もう秋が来て朝夕は涼しくなつて来てしのぎ易くなつたが、風邪を引かぬように気をつけ、早く快くなつて一日でも早く帰つて来なさい、正法の耳に入る人は少い。待つこと切なり。

大悲無倦常照我、撰取の光懐に安住して笑つて生きること。笑つて死ぬることの出来る人は笑つて生きる。「笑つて死に、笑つて生きる人になろう。」それが山口県での開講式の言であつた。決して「一人」で生きてはなりません。若生者不取正覚のみ親と教主善知識と、二人の親と共にあることを忘れないこと。自分を善悪で律しないで大悲光明の撰取に安んずること。御念仏だけです。御母様によりしく御伝え下さい。では御大事に。南無阿弥陀仏

昭和十九年九月五日

中村正様

夜晃